

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2022. 3. 9

No. 666

2022春闘交渉 会社の考え

本部は、3月9日、春闘交渉「会社の考え」を行いました。以下、報告します。

会社・「評価による昇給については実施する」

組合・「組合員の切なる思い」「人への投資」を経営陣に伝え、再考し誠意ある回答を強く求める

『会社の考え方』

今年度は、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」で掲げた、持続可能な社会の実現に向け、社会に提供する「物流生産性の向上」、「安全・安心な物流サービス」、「グリーン社会の実現」、「地域の活性化」の4つの価値を生み出すため、「JR貨物グループ中期経営計画2023」のもと、コーポレート・ガバナンスと安全を基盤に、鉄道ロジスティクス事業では、鉄道輸送の商品力強化や信頼性向上に取り組むとともに、収支改善に向けた取組みの継続・強化による収益性の向上、総合物流企業グループへの進化、不動産事業では自社用地を活用した新規開発に加え、外部から購入した不動産物件による賃貸事業を推進し、利益拡大等の諸施策を推進してきた。

しかしながら、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う景気停滞を余儀なくされ、政府による行動制限が解除されたことにより、年末にかけて経済活動は一時的に回復基調になったが、2022年に入ってから新変異株（オミクロン株）により感染者数が急増し、ふたたび、政府によるまん延防止等重点措置が全国的に適用されるなど厳しい状況にある。

輸送動向では2021年8月の大雨により山陽線や中央線が3週間にわたり不通となり、12月末には山陽線瀬野～八本松駅間における貨物列車の脱線事故が発生した。2022年に入っても、各地区における相次ぐ雪害の影響もあり、昨日時点、1月期計画に対して取扱い収入が約△23億円強と厳しい状況になっている。

改めて、このようなコロナ禍と自然災害、脱線事故の中でも、社員の皆さんの奮闘、協力のもと早期の復旧作業や代替輸送等の収入確保に努めて頂いたことには感謝申し上げます。

以上、会社の状況を踏まえて、現時点の会社の考えとしては「評価による昇給については実施する」である。

組合・到底納得できる内容ではない。「ベア実施」は考えていないということか。

会社・ベアについては、この間の貴組合の主張も受け止め、引き続き社内議論をしていく。

組合・今年度も終わりに近づいているが、単体・連結決算はどのように見込んでいるのか。

会社・現在精査中であるが、お伝えした通り、収入ベースで△23億円であるため非常に厳しい状況である。

組合・2月の収入動向はどうだったのか。

会社・詳細は精査中であるが、連続した雪害により計画を大きく下回っている。

組合・雪害も改善され年度末需要もあるが、3月に入っても厳しい状況のままなのか。

会社・厳しい状況は続いている。

組合・コロナにより日本経済は疲弊し、会社が厳しい舵取りを余儀なくされていることは重々承知しているが、過去を振り返れば、会社の業績が好調な時でも賃金抑制を余儀なくされ我慢を強いられてきた。組合員は「感染症に感染するかもしれない」というリスクを背負いながら、指定公共交通機関の責務を全うし日々の業務を遂行している。

会社は「感謝申し上げます」と言っているが、本日の回答には全く誠意が感じられず、会社が厳しい時こそ経営陣の手腕の見せ所である。

ロシアによるウクライナ侵攻で世界情勢が緊迫する中、物価上昇が避けられない状況であり、「賃金は上がらず、物価は上昇する」という厳しい環境が生まれる。

「組合員の切なる思い」「人への投資」を経営陣に伝え、再度、議論を深めて頂き、回答日には誠意ある回答をお願いしたい。

会社・本日の議論も踏まえ、引き続き社内議論をしていく。

組合・回答予定日は、3月17日（木）でよいか。

会社・そうである。

組合・改めて言うが、誠意ある回答をお願いしたい。

会社・貴組合の主張を経営陣に伝え、引き続き社内議論していく。

以上